

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市長賞

籠上中学校 2年 内野 款太

毎日、鬼のような顔で怒る母ちゃん。
「いちいちうるさいな」
「勉強、勉強いうな」
僕は、おもいきり壁をけった。
大きな穴があいた。
やってしまった。
でも僕は悪くない。
僕の心にも大きな穴があいた。
母ちゃんはだまって壁の穴を直した。
母ちゃんのことだから、壁のほうを心配するにきまってる。
足がズキズキ痛い。それ以上に心が痛い。
「足大丈夫だった？」
母ちゃんが僕の足を心配してくれた。
うれしかった。ごめんね。母ちゃん。
母ちゃんは心の穴もなおしてくれる。
ありがとう母ちゃん。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市議会議長賞

清水岡小学校 6年 落合 瑠一

「ちょっとまっててね」

今のぼくは、大人になろうとする気持ち・・・
まだ子どもでいたい気持ち・・・
バランスよくまだ上手に、整理がつかない。
だけど体が声が、どんどん大人になっているのが自分でも分か
まだ、本当はお母さんに甘えたいのに、
でもカッコわるいかな？
とってしまう自分がいる。
だから、ちょっとした事でもイライラして、八つあたりをしち
それでも、お母さんはいつもぼくを温かく見守っていてくれる
ありがとう お母さん
いつか、ぼくがお母さんを守れるような大人になるからね。
だから少しまっててね。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市教育委員会教育長賞

清水高部東小学校 4年 鈴木 康太

「名人」

うちのおじいちゃんは名人だ。

すごいスピードで山を登る。

おじいちゃんは山登り名人。

家のベランダで野菜や花を上手に育てている。

おじいちゃんは栽培名人。

金魚やメダカを増やしてくれる。

おじいちゃんは飼育名人。

こわれた物をなんでも直してくれる。

おじいちゃんは修理名人。

食事の時、必ず感想を言う。

おじいちゃんは食レポ名人。

ぼくのじまんのおじいちゃんです。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市校長会会長賞

清水両河内中学校 2年 望月 利矩

「僕の日常」

「うるさいな！」
お母さんはいつも僕を怒る。
ぼくもイライラする。
今やろうとしてるのに
先に言われると反発したくなる。
悪いのはわかっている。
本当は僕のためにお母さんが怒ること。
あやまれない。
ごめんなさいが言えない。
心で言っても伝わらない。
お母さんこれから
がんばってみるよ。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市PTA連絡協議会会長賞
服織小学校 6年 小林 のぞみ

「でっかい愛情」

でたっ
今朝のみそしる具がでかい
この間のカレーの具もでかい
弁当のおにぎり一個がでかい

ちょっとお母さんに言ってみた
「どうしていつも具がでかいの。」
お母さんは大きく笑って言った
「大きくなるように。」って

そうなんだ
でっかい愛情
ありがとう

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市PTA連絡協議会母親委員長賞
井宮北小学校 4年 是永 彩瑛

「おかあさんのまほうの言葉」

お手ついでで失敗した。
お母さんは、成功の勉強なんだよ
その言葉はまほうみたいだった。

大切な言葉は、なんでもまほう。
かけられるとしあわせになる。

お母さんたちは、やっぱりすごい。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

北沼上小学校 4年 細澤 豪

「お父さんの足はなぜくさい」

ぼくのお父さんは
いつもくさいと言われている

くつをぬいたら
足からなっとうのにおいがする

でもそれは
お仕事をがんばっているしょうこだよね
重いものを持ち上げるとき
足に力が入るんだよね

ごはんも食べず お風呂も入らずに
ねてしまうお父さん
お仕事をがんばっているからだよね

いつもありがとう

でもこれからは
お風呂にちゃんと入ってね

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

西奈南小学校 4年 依田 詩那

「月曜日」

「行ってきます」
わたしは言った
でも今日は月曜日
のり気なはずがない
おまけに苦手な国語のじゅ業だってある
そんなことばかり考えてしまう
下を向きながら歩いた

はたふりの人がいた
その人は毎日いる
「おはよう」
はたふりの人おはよう
それはわたしにとってのまほうだ

わたしは上を向いて歩いた
明るいあの人はずごい

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

南部小学校 4年 赤池 杏々寧

「うそ」

ママに、うそをついた。
心が「ちくっ」とした。
ママは、信じてくれた。
心が「ずきん」とした。
すぐに、あやまろうと思った。
でも、言えなかった。
そんな自分がなさけなくなった。
心が苦しくなった。
「うそをついて、ごめんね」と、
手紙を書いた。
ママは、にっこりわらってくれた。
私の心の中の、しぼんでしまった花が、
またさいた。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水不二見小学校 4年 岩崎 るな

またしかられちゃった
でもしかられるって
愛をもらっていることだって
おこられる 愛される
ちがってみえて
実はいっしょ
しかるって
とってもパワーがいるんだって
樂をしたければ
むしをすればいいんだもん
愛をもらっているから
むししちゃいけないよね
直さなきゃいけないよね
これからは気をつけよ♡

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

長田東小学校 6年 赤堀 七萌

「お母さんのぬくもり」

「なほお、荷物持って。」

2年生の時の私は、友達に言いたいことを
言えない性格だった。

時々友達にお願いされると、
いやでもことわれなかった。

家に帰ればため息をつき
ふとんの上につぶせにねる。

「今日もよくがんばった。」

そう自分に言い聞かせて。

お母さんが帰ってきた。

「学校で何かあったでしょう。顔色が悪い。」
そう言うとお母さんは、たてひざになって両手を広げた。

そのしゅんかん、なみだがこみあげてきた。

お母さんのうでにつつまれて大声で泣く。

お母さんのぬくもりって不思議。

温かくて、おちつくな。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水有度第二小学校 6年 渡辺 真衣

ちょっと不安な時、悲しい時、
そっと背中をさすってくれる。
小さい時からずっとそう。
なんだかホッとする。
さっきまでの気持ちが和らいで、
落ちつくかんじがする。
つい、文句を言ってごめんなさい。
思ってもいないことを言ってごめんなさい。
ケンカしても、最後は、体を寄せて
背中をさすってくれるお母さん。
素直になれる、おまじない。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水庵原小学校 6年 平井 遥斗

「気づいてくれてありがとう」

父は単身ふにんだ
なやみ事
ききたい伝えたい事など
会話はいつもLINEだね
き読はいつも深夜だね

本当につらい時
気づいて電話くれたよね
一時だったけど
直接話せてうれしかったよ
夜中じゅうずっと話したね

言ってなかったけど
心のそこからありがとう

次の日仕事大じょう夫だったかな
おかげでぼくは
前に進めたよ

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水興津小学校 6年 山梨 紳

「本当はね」

「しんちゃん～」
とお母さんは、ぼくにだきつく
「やめてぼくはもう大きいから」
ぼくは言う
お母さんは、ぼくががんばると
「しんちゃん～」と頭をなでる
「やめてはずかしいから」
ぼくは言う
お母さんは、ぼくが悲しんでいると
「しんちゃん～」と一緒に悲しい
顔をしてぼくをなぐさめる
「大丈夫」 ぼくは言う
本当は・・・
いつもはずかしいから強がって
言ってしまうけどいつもぼくを
見ていてくれるママ とってもうれしいよ
ぼくもママが大すき ありがとう

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

安倍川中学校 2年 田辺 渚

「親」

全部がきれいになった
消えたいと思った
そんなときに親がいた
どうでもいいと思った
でも
親は何も言わずにとなりにきた
あっち行け
1人でいたかった
しかし
親は優しく私をだきしめた
え・・・？
つらかったね
そう言葉をかけてくれた
私の目には涙がこみあげた
こうゆう時
親ってずるいと思う
でも
私にとって大切な存在なんだ

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

藁科中学校 2年 酒井 拍

「母の強さ」

母は強い
母は妹を暗い夜でも
外に出してしかる
母は疲れて帰ってきても
僕たちのわがママを聞く
母は調子の悪い時でも
いつも通り過ごしている

こんなに強い母が
卒業式で泣いた

この時僕は思った
母の強さは
僕たちへの愛なのだと

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

高松中学校 2年 久保田 華

「勉強しなさい！」
「お風呂、早く入りなさい！！」
あれやれ、これやれ。

うるさい。うるさい！
ほうっておいてよ！

ある日、うっかり皿を割った。
あー、怒られる。

でも、母の一声は
「けがしてない？大丈夫！？」だった。

なーんだ。
愛されてるじゃん、私。
もう少し、ほんの少し
素直になってみようかな。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

城山中学校 2年 濱嶋 俊吾

「ちっぽけな紙」

僕が家に帰っても
まだ誰もいない時がある
そんな時機の上に
ちっぽけな紙が置いてある

それは手紙になっていて
今日の家での出来事から始まり
「勉強がんばってね」で終わる
僕はこの手紙をみると
ついついがんばってしまう

僕はたった数行の
このちっぽけな手紙が好きだ
この手紙を見ると
自分は「愛されているんだ」
という気持ちがおいてくるからだ
恥ずかしくて言えないけれど
僕は「ありがとう」と伝えたい

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

賤機中小学校 4年 梶山 未悠

「パパ ママ ありがとう」

だれよりも一番早く起きるママ。
朝からすごいそがしそう。
でもね
お手つだいをするとえ顔で
「ありがとう。」
って言ってくれるからうれしくなる。

だれよりも一番おそく帰ってくるパパ。
毎日お仕事大へんそう。
でもね
やさしい声で
「どんな一日だった？」
って聞いてくれるから楽しくなる。

パパ ママありがとう。
大すき。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

中田小学校 4年 築山 亜弥

「私、愛されてるな」

あっ、お母さんだ。
お母さんおかえりなさいのグュー。
温かいな。
お母さんのぬくもり。

私、愛されてるな。

あっ、お父さんだ。
短い時間のお楽しみ
いっしょに入る
お風呂で遊ぶ時。
お話を楽しんで聞いてくれる。
うれしいな。

私、愛されてるな。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水入江小学校 4年 堀内 星吾

「ぼくのささえ」

朝、ぼくは
「いってきます。」
と言って家族とあく手して、
何度も手をふって出かける。

ぼくは、何度もふり返る。
まだ、家族はぼくに手をふってくれている。

毎朝ぼくは、安心して学校に行く。

このくり返しがぼくの毎日を、
ささえてくれている。

毎朝、ぼくに手をふってくれている、
家族のために、ぼくもがんばろう。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水入江小学校 4年 本多 夢果

「お父さんとわたし」

れいぞう庫におかしを入れる
お父さんが先に食べちゃう

新しいゲームを買ってもらう
お父さんが先にクリアしちゃう

お母さんにおこられる
お父さんもいっしょにおこられる
「お母さん、こわいね。」
二人でこっそり話す

お父さんとわたし
顔もそっくり
すきなもの
考えることもそっくり

お父さんが
わたしのお父さんでよかった

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

蒲原東小学校 4年 大津 亜果莉

「わたしは、まん中っ子」

おねえちゃんは しっかりもの
ふざけるわたしは だいたいおこられる
いもうとは あまえんぼう
やさしいわたしは いつもめんどろをみる
まん中って大変
いやになる事の方が多い
でも、知っているよ。
わたしの姉妹は 世界中どこをさがしても
二人しかいないこと
お父さんとお母さんから生まれた
たった三人の姉妹
たまには ケンカもいいけれど
いつもなかよく していきたいな
だからあんまり おこらないでね お姉ちゃん
だからあまり わがままいわないでね あゆみちゃん

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

城北小学校 6年 山田 優花

「家族」

父はお日様
一緒にいると楽しくて
心が何だかホカホカする
母は青空
一緒にいると落ちついて
心がどんどん澄んでくる
父はお日様
母は青空
私は雲
ふかふかの雲
気持ち良く
いつもふんわり浮かんでいる
大きく
温かく
両親に見守られ
私はぐんぐん大きくなる

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

千代田小学校 6年 山口 真央

「おばあちゃんからもらったもの」

おばあちゃんがくれた
巾着袋
おばあちゃんが教えてくれた
レース編み
おばあちゃんを作ってくれた
肉じゃが
おばあちゃんは私に
たくさんの役立つことと
たくさんの愛情と
たくさんの笑顔をくれた
そんなおばあちゃんは今
私より小さくなった
今度は私が新しいことを
たくさんたくさん
笑顔と一緒に
教えてあげるね

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

賤機中小学校 6年 繁田 美希

「家族のパズル」

私の家族は周りから見たらふつうの家族。
でも、たった一つ欠けても悲しくなる。
パズルみたい。
まん中の大きいピースはお父さん。
まあるい形のお母さん。
おばあちゃんとお兄ちゃんと私と弟が
まわりにくっついて一つになる。

楽しいことがあると思い出のピースが増えていく。

私の家族がどんどん増えて
世界中の家族のパズルとつながって、
世界一大きいみんなの笑顔になったら
いいな。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

大河内小学校 6年 小玉 結月

「お母ちゃんのメモ」

今日はあるかな

いつもの場所に

あったあった

お母ちゃんは

家に私が1人の時

メモを残してくれる

「おかえり。今日は楽しいことあった？」

今日あったことを思い出す

早くお母ちゃんに言いたいな

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

大河内小学校 6年 山下 温葉

「ママからのメール」

やさしい音で目が覚めた。

ママからのメールだ。

「大丈夫。」

三文字の言葉。

(え、ママって工作中だよね。なんでメールしてるの。)

(フフフ)

熱は下がらなかつたけれど、

心がぽかぽかあたたかくなった。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

安東中学校 2年 織田 卓馬

「ごめんね母さん」

「ごめんなさい」と頭を下げる
僕もいっしょに頭を下げる
僕はそのときムカムカしてた
その帰り道「なんでやったの」と僕にきく
僕は「うるさい」とスタスタ歩く
ごめんね母さん、悪くないのに
ごめんね母さん、イライラぶつけて
でもね母さん、ありがとう
いっしょに謝ってくれて

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

井川中学校 2年 滝波 遥奈

「大きな背中」

お父さんの大きな背中。
いつも私を守ってくれる。
お父さんの大きな背中。
いつも私の道しるべ。
お父さんの大きな背中。
いつまでも私の目標。

お父さん、たくさん守ってくれて
ありがとう。
おとうさん、道しるべでいてくれて
ありがとう。

いつかお父さんみたいになれるかな。

いつかお父さんみたいになりたいな。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

東豊田中学校 2年 川口 陽司

「お母さんの口ぐせ」

お母さんの口ぐせは
「肩もんで」、「足痛い」
いつもぼくに言ってきた
めんどくさいと思っていたけど
今は違うよ
お母さんの痛さが分かるよ
包丁の使い方難しいね
洗たくって難しいね
ぼくも少し大人になったかな
お母さんありがとう

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水第六中学校 2年 片平 結菜

ご飯を作る、お母さん。
洗濯をする、お母さん。
掃除をする、お母さん。

家族のために働く、お母さん。
お金はもらえない、お母さん。

私はお金をあげられないから、
ほんの少しのプレゼント。
私の「笑顔」と「ありがとう」
それでもいいかな？
お母さん。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水飯田中学校 2年 平井 秋桜

申し訳ないけれど
私はあなたの天使にはなれない
反抗期なのよと
あなたはささやいた
更年期かしらと
私はあざ笑った
私は天使ではない
それでも私は
あなたに休みがないこと
あなたがいつも家族を一番に想っていること
あなたには二つの目覚まし時計が必要だということ
あなたも時々弱音を吐きたくなること
全部知っている
だからあなたには
あなただけには
「天使じゃなくていいんだよ」
そう言ってほしいんだよ

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

横内小学校 4年 山田 康貴

「買い物はいそがしい」

明日は、お弁当の日。
ぼくは、ワクワク。
お母さんは、バタバタ。
お仕事と、おけいこの送りむかえ、
たくさんのお買い物。
あっちへ行ったり、
こっちへ行ったり。

「あ、ノートなくなりそう。」
お兄ちゃんとぼくは、
いつもぎりぎりと言う。
「えー。」
と言いながら飛び出していく。

いつも、ありがとう。
もっと早く言うからね。
お弁当いつもおいしいよ。
今日は、ぼくがお買い物に行くね。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

北沼上小学校 4年 石川 ほの花

「お母さんからうまれた一つ命」

お母さんのおなかが大きくなったとき
「ありがとう」って思ったよ

お母さんのおなかをさわったとき
ピクピクうごいて
「たのしみだな」って思ったよ

はじめてももちゃんを見たときは
かるくて小さくて
でも
落としそうでこわかったよ

お母さん ありがとう
わたしの宝物がふえたんだよ
妹を産んでくれてありがとう

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

大里東小学校 4年 寺田 壮真

「きらわれてるわけじゃない」

今まで、
たくさんおこられてきた。
たくさん注意された。
ぼくは、
きらわれていると思っていた。
でも、ちがった。
おこったり注意したりするのは
しょうらい困ってほしくないから。
きらわれているわけじゃない。
むしろ愛されている。
このことに気づいた。

感しゃしています。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

清水岡小学校 4年 高橋 亜姫

「ママはスーパーマン」

私のママはスーパーマン
毎日仕事にしているのに
せんとくも
家族みんなのごはんも
休まず毎日やっている
パパの話
ねえねの話
妹の話
そして私
休まず毎日聞いてくれる
一度に三つの事も四つの事も
できちゃう
すごいなって思う
まねできないって思う
私のママはスーパーマン

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

清水高部東小学校 4年 矢口 あいら

「やさしいママ」

ママは、いつもわたしをささえてくれる。
妹が、わたしの言うことを聞いてくれなくて、
くやしくて泣いてしまった時。
暗い所がこわくて、泣いてしまった時。
パパに、ものすごくおこられて
泣いてしまった時。
いつもママは、泣いているわたしを、
「ギュッ！」
と、だきしめて、せなかを
「トントン」
と、してくれる。
そんな、やさしいママに、
わたしはいつも、ささえられている。
「ママ、ありがとう」

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

賤機北小学校 6年 工島 海斗

「母と仲直り」

「母さんなんてきらいだ。」
と、言いはなって登校した。
授業中も、もやもやしていた。
学校から帰ると何ごともなかったように母は、
「おかえり。」
と言って、おやつをくれた。
晩ご飯までの間、「ごめんなさい。」の
一言が言いたくて、何度も練習した。
晩ご飯の時間になった。
ぼくは勇気をふりしぼって
「ごめんなさい。」
と、言った。母は、
「お母さんも、ごめんね。」
と言ってくれた。
仲直りができて心がすごくすっきりした。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

南薫科小学校 6年 吉村 藍里

「先生ってすごい」

先生ってすごいなあ。
いっぱい勉強してるんだろうな。
いつか私も先生になりたい、
と、あこがれた。
先生はあきらめない。
先生はうるさい、けれども
先生は優しい。
先生は努力家。
そんな先生は私の尊敬する
大人の一人だ。

こんな尊敬する先生が
私に言う口ぐせは、
「笑顔がたりないよ。」
先生はあきらめない。
先生はうるさい、けれども
先生は優しい。
先生は努力家。
先生ってすごいなあ。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

中島小学校 6年 鈴木 大和

「何でこんなに楽しいんだろう毎日が」

「何でこんなに楽しいんだろう毎日が」

学校で過ごす日々
給食でじゃんけんに勝った時
テストで奇跡的に100点とった時
サッカーの応援に来てくれた時
サッカーで点を入れた時
夕ご飯がハンバーグの時

「何でこんなに楽しいんだろう毎日が」
丈夫な体があるからだ
元気に産んでくれてありがとう
お母さん

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

西豊田小学校 6年 原田 将希

「祖母との11年間」

ぼくの体は、祖母が作った野菜達でできている。
みずみずしくて、とりたて新鮮な野菜はぴかぴか光り、
一口食べるとあまさが口中に広がってくる。
祖母のそばで大きくなった11年間。
だれよりも祖母といる時間が多かった。
ぼくが何度そっけない態度をとっても、
「まあくん。」
と温かい笑顔を向けてくれる。
こんな事分からないよなっていう話にも
つき合ってくれる。
愛されているんだなと思った。
「ばあば今までありがとう。
ばあばはぼくにとって大切な人です。
これからもたくさん笑おうね。」

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

清水不二見小学校 6年 野賀 稜斗

「ぼくは反抗期？」

「反抗期」って何だろう？
お父さんとお母さんが話してた
「稜斗は反抗期なんだよ。」

って。
ぼくが言うことをきかないから？
すぐに「おとうさんキライ。」「お母さん大キライ！」
って言うから？

ぼくだって本当はいい子でいたいんだ。
だけど、だけどね・・・。
なんだかイライラしてわざと悪い子になっちゃうんだ。
ほんとは、ほんとうはね・・・。
「お父さんもお母さんも大好きだよ。」
だからぼくの「反抗期」がなおるまで、
もう少しまってね。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

玉川中学校 2年 内野 彰子

「私が目指す私」

私の尊敬する先生
先生は私の背中をおしてくれた
その先生の手は冷たかった
でも、とてもあたたかかった

最後の別れの日
「がんばれよ。」
笑顔で先生は言った
うれしかった

先生は笑顔と言葉で背中をおしてくれた
先生におされ、とびだした新しい世界
それは、希望に見えた

わたしもいつか先生のように
背中をおして笑顔で言いたい

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

中島中学校 2年 来迎 瑠奈

「十年前の写真」

ある日部屋の片づけをしていたら
昔の自分の幼い写真が出てきた。
その写真の自分は涙をポロポロと
流していた。
それだけを見ると悲しい写真に見えた。
けれど周りを見ると父が私をぎゅっと
優しく包んでくれていた。
他の写真も見てみた。
やはり私の周りには家族がいた。
いつ見ても心がほっこり。
私は昔も今も家族に
「愛されている」のだ。

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

豊田中学校 2年 佐野 志帆

「毎日毎日」

母の温かい手の平は
ひび割れてざらざらしている
毎日毎日
冷たい水にふれるから

父の広い肩は
凝って固くなっている
毎日毎日
パソコンに向かうから

姉の柔らかい口元は
ほんのり微笑みを浮かべている
毎日毎日
誰かを気遣っているから

私のちっぽけな心は
毎日毎日
何ができるか問うている

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

蒲原中学校 2年 木内 蒼大

「あいさつの輪」

ぼくはいつも不思議に思う
あいさつはなぜいい気分になるのだろう
登校中ぼくは決まってあいさつをする
交通整備のおじちゃんに
掃除中のおばちゃんに
通勤中のご夫婦に

ぼくはいつも疑問に思う
どこから来たかも分からない
どんな人かも分からない
でもたしかにあいさつをする

みんな忙しいはずなのに
いつもぼくらを見守っている
安心感に包まれていく
あいさつの輪が広がっていく

ではぼくはどうだろう
精一杯こたえられているだろうか
ありがとうを伝えられているだろうか
だから胸をはろう
胸をはってありがとうを伝えよう

それがぼくの答えだと思う

平成28年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

蒲原中学校 2年 高山 夢

「お父さん、ありがとう」

初めてのテストの時
いっぱいいっぱいになっていて
そんな時に
支えてくれたのは
お父さんだった
「そんなにがんばらなくていいんだよ」
「もうちょっと力をぬいて」
と言ってくれた
最初はその言葉が理解できなくて
なんで力をぬかないといけないの
と思っていたけれど
今では救いの一言

本当にありがとう
私はその言葉を一生忘れない